

第 5 回リフレクション会議について(令和 6 年 8 月 28 日)

講師

- 一般社団法人 School Transformation Networking 代表理事 山口 裕也 先生

協議内容

- 子どもたちの主体性を育む宿泊学習を目指して

内容

第 5 回の会合では、2 学期に実施する朝日ヶ丘小学校の宿泊学習の取り組みに関する報告をもとに協議を深めました。

芦屋市では、小学校 4 年生の教育活動の一環として 1 泊 2 日の宿泊学習を実施します。

今回、特に朝日ヶ丘小学校では、「子どもの主体性を育む」ことを重点に宿泊学習の単元を開発しました。単元の開発にあたっては、1.「活動の目的」から問い直す。2.宿泊学習全体の単元計画を教師がしっかりと立てておく。3.可能な限り学年全員で活動する。4.学習の目的や育みたい力を保護者と事前に共有する。という 4 つのポイントを大切にしています。

報告を受けて協議に参加した教員からは、

1. 「活動の目的」から問い直すことによって、誰のための活動なのかをもう一度考えることができる。
2. これまでは、教師の準備のしやすさや、管理のしやすさなど、授業の主語を「教師」にしてしまっていたが、子どもにとって意味のある活動は何かを考えることで、授業の主語が「子ども」になる。
3. 「委ねる」と「放任」は異なる。「つけたい力」を明確にして、そこに向かうための学習活動を限りなくたくさん用意する。その中から、子どもが自分に合ったものを選択できるようにしていくことが大切。
4. 委ねて終わりではなく、そのあとにも子どもとしっかり対話し、子ども一人ひとりの気持ちや考えをくみ取りながら寄り添っていくことも必要。

といった意見が出されました。

また、講師の山口先生からは、子どもに委ねる学びを実現する際には学習課題の水準が大切であり、この水準が子どもにとってやりがいがある程度高いと、子どもたちは深く学び、また、他者との協働も主体的に求め始めるという助言がありました。